

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990800033		
法人名	社会福祉法人 清和会		
事業所名	グループホーム あんきな家		
所在地	土佐清水市加久見1464-279		
自己評価作成日	平成23年6月12日	評価結果 市町村受理日	平成23年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、市の中心街から少し離れた元小学校をを改装した施設の2階にあり、前は太平洋、後ろは山で自然に恵まれた立地条件のなか、山菜の季節には、つわぶやいたどり、もちの葉を採りに行って料理やお菓子を作ったりしている。また、畑でジャガイモなどの収穫もしている。利用者の良い状態とは、生き生きとしていることであり、日頃の食事づくりや洗濯、掃除等の作業を職員と一緒に行うとともに、利用者の希望に沿った楽しみが持てるように、ドライブや外食などの外出支援を積極的に行っている。今年4月に小規模ケアハウスが隣接地にオープンし、散歩を兼ねて遊びに行ったり、併設の他の事業所との合同の行事を通じて交流を楽しんでいる。また、地域の行事や法人のイベント等を通じて地域住民の方々と交流しており、地域に溶け込んだ事業所づくりに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokouhyou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3990800033&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年7月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人が経営する多様な複合型施設の中の一つであり、元小学校校舎の2階部分を改修し、遠くには太平洋が眺望できるなど、自然に恵まれた高台に立地している。周辺の2つの町内会に加入し、地域の行事や清掃活動への参加、併設の事業所合同の行事を通して地域住民と交流したり、法人が実施するあったかふれあいセンター事業を通じて地域の子ども達とも交流している。職員は利用者一人ひとりのできることや可能性を見出すとともに、意向に沿ってできるだけ外に出向いていく支援を心がけている。また、前回の評価結果を受けて課題等に対してできることから着実に取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名：GH あんきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく、仲良く、けじめのある仕事」を基本に、月1回の事業所全体会で理念を唱和するちもに、日頃の支援内容について話し合うことで、理念の共有と実践につなげている。	法人の地域福祉サービスの理念を基本に、事業所独自の理念を作成している。毎月の職員会で日頃のケアを振り返りながら理念の共有や意識づけを行い、利用者のできることや可能性を引き出し、自立した暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域のイベントや併設事業所との合同行事を通じて地域の方々と交流している。近隣の方に季節の野菜や果物をいただいたり、利用者も参加して地域の清掃活動も行っている。	複合型施設のメリットを活かした事業所合同の納涼祭などを通して多くの地域住民と交流するほか、あったかふれあいセンター事業を通して子ども達と触れ合ったり、地域の盆踊りに参加したりしている。また、地域の一員として毎月地域のゴミ拾いや草刈きなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に事業所の説明会等を随時行い、介護相談を行うなど、認知症の理解が深まるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行い、事業所からの報告に参加委員から意見や質問が出され、運営に活かしている。議事録の作成とともに、話し合いの内容はホーム便りや家族会で伝えている。	事業所から利用者の状況や行事等の報告を行い、参加委員から意見等が出され、双方向的な会議となっている。評価結果に対する目標達成計画などについても議題にあげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者のケアや事業の運営について相談できる関係ができています。また、複合型施設としての地域貢献など助言や協力を得ている。	運営推進会議を通して事業所の実情を説明するとともに、利用者に関する情報交換や制度の運用等について相談するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会等を通じ、職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組み、そのリスクについてもその都度家族にも説明や相談をしている。帰宅願望のある利用者には併設事業所の協力も得ながら見守り支援をしている。	身体拘束禁止項目について職員に周知するとともに、言葉による行動抑制など気になる場合は管理者から注意したり、職員同士で話し合っている。事業所は校舎跡の2階を利用しており、入口や窓には必要に応じてセンサーを設置している。外出傾向のある利用者には、さりげなく後からついて行ったり、併設の事業所間での連携体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止に関する研修会に参加し、研修内容の報告を受けて職員間で共有し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受けており、状況に応じて職員間で話し合いの機会を持ち、利用者の権利を守る支援に取り組んでいくようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約について、管理者から利用者、家族に説明を行い、十分納得していただいたうえで署名してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見等には、その都度納得してもらうよう改善や対応に取り組んでいる。2カ月毎に家族会を開催し、その際には家族同士が意見交換できる場を作り、交流の機会を持っている。	家族の面会時に話し合ったり、電話連絡や家族会などを通して家族の意見や要望を聞いている。利用者の健康管理や転倒予防への対応について職員間で共有しながらケアにつなげたり、顔写真を掲示して職員紹介をしたりしている。また、年6回の家族会は行事を交えて開催したり、家族同士で話し合う場を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見は、月1回の事業所全体会や問題や疑問が生じた際には随時聞き取りを行い、職員の意見等を反映して改善できるように努めている。	毎月の職員会や必要に応じてその都度話し合う機会を持ち、職員の意見や提案を聞いている。管理者と職員間の意思疎通を十分に行い、併設事業所の代表者会を通して法人事務局に要望等も出し、設備の整備等につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等について定期的に把握し、職員による自己点検もを行いながら職務意欲の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己啓発のため研修情報をファイルして提示し、法人内研修や外部の研修の機会を設け参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所と意見交換を行う機会を持ち、サービスの向上につなげている。また、市内のグループホーム合同の運動会を開催し、交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集や傾聴、観察により早期に利用者とはスタッフの信頼関係を構築し、落ち着いて穏やかに過ごしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の意向や要望を聞き、入居後も家族との信頼関係を築き、協働して支援していくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況や家族の意向等を踏まえ、必要なサービスや今後必要と思われるサービスについて意見交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者の様子を敏感に察知するように努めながら、職員も日常生活全般を共に行うものとしての関係を築き上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に情報交換を行い、本人の要望や暮らしぶりなどを共有しながら、家族の協力を得ながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の他の事業所の昔馴染みの利用者と面会してゆっくり時間を過ごしたり、地元に戻ったり、思い入れのある行きたい場所に外出できるように支援している。また、外出先での知人との再会を大切にしながら関係の継続を図っている。	併設事業所の利用者と旧交を温めたり、利用者の希望や状態をみながらドライブがてら自宅やその周辺に出かけたり、職歴などから大敷網漁を見に行くなどしている。また、家族の協力で行きつけの美容院を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者間の会話の架け橋となり、孤立することなく過ごせるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、電話連絡や手紙などにより事業所の近況報告などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に過ごす中で、思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者は、家族や知人から情報収集を行い、表情を見ながら意向を推し量るようにしている。また、筆談したり、表情や態度から思いを察するなど、本人本位の支援ができるように努めている。	利用者の生活歴等を職員間で共有し、日頃の会話や行動などから利用者の意向や希望を把握している。困難な場合は表情や筆談などの工夫をしながら思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との話し合いや、その他の関係先からの情報により、昔から本人が日課にしていることや仕事、趣味などを把握し、ケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、引継ぎノートを活用して把握と情報の共有に努めている。その日あった様子などもタイムリーに記載し、心身の状況や現在の能力などの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意見も聞き、担当制による職員のアセスメントやモニタリングを踏まえカンファレンスを行っている。介護計画は6カ月を基本に見直しているが、状況の変化がある時はカンファレンスや担当者会を行い、その都度見直すようにしている。	職員担当制により毎月ケアの評価を行い、3カ月毎にモニタリングを行っている。また、利用者、家族の意向も聞きながら6カ月毎に計画作成担当者を中心にカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録を整備し、職員間で情報を共有するとともに、意見交換を行いながら介護計画や日々の実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の個々のニーズには、必要性があると判断した場合は即座に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が豊かで安全な暮らしを楽しむことができるよう、地域の行事などには積極的に参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。通院介助は事業所が担当しているが、家族が同行している場合もある。受診結果については、家族に連絡するとともに職員間で共有している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医とし、殆どの利用者は従来から協力病院で受診している。通院介助は主に事業所に対応しており、必要に応じて家族も同行している。市外や専門医への通院は家族対応を基本としている。受診結果は個人記録簿で共有するとともに、家族にも連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、事業所に看護師は配置していないが、協力病院とは密に連絡をとり、必要時には直ちに受診するなど、健康管理に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中や退院後も医療機関とは常に連絡をとり、利用者の状態の把握に努め、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師の配置がなく、重度化した場合には事業所での対応は困難であるため、早期発見と早期受診の支援をしている。また、状態に応じて医療機関での支援になるが、退院後の受け入れ等についても契約時に説明している。	重度化や終末期の支援については医療機関と連携した対応を基本としている。重篤により入院した事例では、事業所としてでき得る範囲で利用者や家族への精神的、身体的な面での支援をしている。医療連携体制加算の該当がなく、指針等の作成の必要はないが、重度化等の対応について考え方を明文化し、家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を修了しており、急変時には、管理者の指示のもと即対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の合同防災避難訓練と3カ月毎の事業所の自主訓練で年間6回の防災訓練を行っている。また、運営推進会議に後で委員に参加してもらい防災訓練を行ったり、地域の協力体制を確立するための取り組みを行っている。	併設事業所合同の訓練と事業所独自の訓練を実施している。運営推進会議に合わせて行うなど工夫しているが、一般住民の協力は得られていない。また、事業所では災害時に備えた備蓄の準備もしてきたが、本年度から法人として複合型施設全体で備蓄していく方針が出されている。	災害時には地域の協力が欠かせないので、引き続き運営推進会議を通して事業所の避難訓練に地域住民の参加を呼びかけるとともに、かつて協力のあった地域の消防団にも声かけするなどの取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所全体会で言う理念の振り返りの際に、人権を尊重した対応等の確認を行い、日常のケアの中で利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応を徹底している。	職員は理念に沿って利用者の人格を尊重した支援を心がけ、常に振り返りながら排泄時の声かけや利用者が自分の時間を持って過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、さりげなく希望や要望を把握するように努め、利用者がその人らしい生活を送られるように自己決定できる場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にし、体調や気分に応じた環境を整え、声かけのタイミングを工夫するなど、その人らしく過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容により整容したり、その日の衣類などを利用者に決めてもらったり、選んでもらうなどしてその人らしい身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事摂取量は良好で残量は少なく、職員と一緒に楽しい食事風景がある。利用者は能力に応じて下ごしらえや味付け、盛り付けや配膳、後片付けを職員と一緒にやっている。	本年4月から配食サービスを利用しており、利用者の嗜好等は業者に伝えている。おやつやイベント時には事業所で調理する機会を持ち、利用者は能力に応じて調理や味付け、食器洗いなどのできることを職員と一緒にしている。職員は弁当を持参したり、利用者と同じ物を一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の摂取状況を把握している。水分や食事の形態についても利用者の摂取状況を考慮して必要量を確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけて口腔ケアを行っている。状況に応じて介助しながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員がトイレでの排泄を行っている。失禁のある利用者については排泄チェック表をチェックしながら排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うなど排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄の自立度や排泄パターンを把握し、トイレで排泄するよう支援している。継続した支援により失禁が減り、排泄用品の節約につなげたり、夜間のみ容量の多い排泄用品を使用するなど、個々に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて、水分量や食べ物の工夫や運動など、主治医の指導を得ながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調を考慮しながら入浴支援をしている。入浴を拒む場合も生活リズムや習慣を把握して声かけをするなど、楽しく入浴できるように工夫している。	利用者の希望に沿って、昼食後から夕食前までの職員体制が整っている時間帯に入浴支援をしている。平均して3～4日に1回の割合で入浴しており、拒否のある場合は声かけのタイミングなどに工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日を通して、本人の希望や体調を考慮しながら空調管理を行い、本人が好きな時に横になったり、就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の服薬している内容を理解し、薬の変更があった場合は、業務日誌や申し送りノートにより職員で共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜づくりや掃除、洗濯、調理など、利用者の得手、不得手を把握し、日常生活の中で好きなことや楽しみごとの場面づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、散歩や買物、ドライブ等の外出の機会を多く持つように支援している。また、地域のイベント等に積極的に参加している。	日常的に事業所周辺を散歩する機会を設け、併設の事業所に機能訓練に出かけるようにしている。利用者の希望に沿って量販店や良心市に買物に行ったり、週に1回はドライブする機会を設けている。また、利用者全員で花見や行楽、外食などの遠出もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で預かるようにしているが、家族の了解のもと利用者が所持している場合もある。利用者自身で支払ってもらうこともあり、職員は見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて家族に電話できるように随時支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、毎月の作業レクリエーションで壁飾りを作成し、季節感を出すようにしている。また、行事の写真を貼ったり、随時お香を焚いたり、空調や照明も利用者の意向に沿って快適に過ごせるように配慮している。	リビングには畳コーナーがあり、フロアは広くゆったりしている。壁面には手作りのカレンダーや共同作品の貼り絵、各種行事の写真などを貼ったり、七夕の笹飾りを置いたり、食卓にはさりげなく紫陽花を活けるなど、生活感や季節感を採り入れた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの畳コーナーやソファで利用者がそれぞれの空間を作り、日常生活の音を聞きながら一人で過ごしたり、気の合う者同士で談笑できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具などを置いたり、懐かしい思い出の写真などを飾っている。家族の協力で模様替えをしたり、ベッド周りの整備や空調管理を行い、快適に過ごせるようにしている。	利用者に馴染みのある椅子や机、衣装ケースや観葉植物などを置いたり、家族写真、ぬり絵作品を飾るなど、思い思いの居室となっている。また、居室の入口側の幅に合わせて、壁面はそれぞれ異なる材質を使用するなど個別性に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、専門の方に助言をいただきながら介護・福祉用具を購入するようにしている。廊下などには状況に応じて手すりの追加整備などを行っている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				